

摘果みかんの6次産業化で耕作放棄地を解消

活動の経緯

温州みかんの価格暴落が始まり地域農業は壊滅的打撃を受けた。先代達は小田原の農業を守り育てることが使命であると考え、環境保全型農業や耕作放棄地の削減、若手生産者の育成などを経て、地域農産物をより安定した販路の確保をするため有限会社ジョイファーム小田原を設立し農産物の6次産業化を開始した。

活動の概要

捨てていた摘果みかんを加工品化、収穫体験や若手の受け入れ耕作放棄地開墾を行なうことで環境の保全を実現。



緑（あお）みかんシロップと
緑（あお）みかん



小田原が一望できる山での
緑みかん収穫

活動の成果、主な実績等

交流企画の際に夏に摘果をした際に捨てていた「摘果」みかんで、農家が密かに自宅で楽しんでいたレシピをもとにシロップを作りジュースを振舞ったところ大好評であった。摘果みかんのシロップを開発し、「緑（あお）みかんシロップ」と名付け販売。価格暴落により担い手の減った温州みかん農家の夏場の収入のない時期に緑（あお）みかんを買い取れる環境を整えた。

都心部の消費者を中心に夏には緑みかん、冬には温州みかんの収穫体験を行ない、小田原のみかん農家の現状を知ってもらいつつも、消費者にも環境保全に取り組んでもらえる機会を設けた。

耕作放棄地を専用圃場として開墾することで長い間農薬や除草剤を使用していない、環境保全型農業に適した消費者にも生産者にもメリットのある形で耕作放棄地の削減を実現した。

専用圃場化をし、適切な時期に全量収穫を行なえる為、経験の少ない若手生産者がみかん栽培に関わりやすい環境を整備した。